

# 令和5年度入学試験問題

## 選択科目 国語 (2科目入試)

※ 数学の問題は、本冊子の反対側にあります。

### 注 意

1. 合図があるまで表紙をあけないこと。
2. 解答はH Bの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
4. 受験票および願書に記入した1教科を選択し、解答用紙に受験番号、国語【国語総合(古文、漢文を除く)】を正しくマークし、氏名を記入すること。
5. 受験票は机上に出しておくこと。
6. 国語【国語総合(古文、漢文を除く)】は1ページから20ページで、問題番号は1番から42番までとなっている。

## 国語

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

### 国語

自然科学への素朴な信頼と、形而上学の貧困ないし無秩序、これが現代の状況であろう。①個人においても社会においても意味や価値をめぐる形而上学の問題は残存する。意味や価値が不在のままで人は何かをすることができないから。当然問い合わせに對応した「答え」が必要となる。

(その1)

そうした状況のなか、この貧困と無秩序の空間に自然科学を原型とする世界観が侵入してくるという事態が生じる。ここに立ち現れるのが自然主義である。自然主義は、物質の原理を精神の領域に敷衍し、自己保存や種の保存、様々な能力の増大と繁栄を目的とするものとして精神を理解し、それに価値や意味を見いだす。こうして「答え」のない状況、あるいは多様な答えがあるという形而上学の状況は一つの答えがある状況へと変わる。

この自然主義は、形而上学の特殊な一つの形態であるにすぎないのにもかかわらず、自然科学がもつと考えられる普遍性を自らにも認めることで、その他の形而上学よりも客観的に正当なものとして自らを理解する。自然をどう理解するのかによって自然主義にも様々な形態がありうるが、時にそれは自然淘汰の原理に立脚しつつ、あらゆる問題を力（時に暴力となる）によつて解決しようとすることがある。

他方、相対主義的に解された形而上学の空間において、何らかのイデオロギーが採用されることもある（ここでは、首尾一貫性や一般的に事実と認識されるものとの整合性を欠くために、形而上学として認め得ないものをイデオロギーと呼ぶ）。相対主義では、絶対的に正しいと言えるような一つの形而上学は確定できないと考えられる。だがこれは、いかなる形而上学も採用してはいけないとということを意味しない。もちろんその他の形而上学とともにではあるが、様々な形而上学が採用可能と考えられるのである。誰もが形而上学的問題を抱えて生きている以上、当然、数ある形而上学のうちのいくつかは魅力的に見えることがある。だが形而上学として認めうるかどうかを精査するのは相当の考査を必要とする。多くの者はその作業を深めずに、イデオロギーを採用してしまう。②彼（女）はそのイデオロギーを客観的に絶対的に正しい真理と認めるがゆえにそれを採用するのではなく、とりあえず自分に限つて、自分にとつてのものとしてそれを採用することにする。だが彼（女）はそのイデオロギーに、同様に魅力を感じる他の人々にも出会うであろう。そうするなかで彼（女）はそのイデオロギーが「一般性」（普遍性よりも小さな集合、様々な一般性が考えられる）をもつことを知るのである。だが厳密に思考することがない人間にとっては、この一般性と普遍性の境目は明瞭には見えない。一般性を拡張することで普遍性へと転化しうるようと思われる。そうした期待をもつて、同じように考える人がもつと増えることを願うであろう。

<sup>2</sup>近代において哲学は、それまでの宗教との結びつきを解き、内在的な自然科学の方に大きく近づくようになった。そこで哲学は、近代社会が自然的で個人的な欲望を満足させるための競争を規格化することで、そうしたIが共存できる状況を作りあげるのを後押しした。企業は人々の欲望に奉仕し、あるいは人々のうちに欲望を作り出し、満足させることで利潤をあげる。企業は作り手、売り手、買い手の行動を法律によつて整え、統御し、③促

## 国語

(その2)

す。同じルールに服することで、諸個人は他者と「平等の」社会的存在となる。実際は多くの人間が資本家に労働力を提供する労働者となるのだが、各人の意識においては、各人は可能な限り自身の欲望を満たすべく行動している。バラバラの諸個人を「社会」と規格化したことをもつて、近代哲学は自らに真理を認めた。

近代の知の編成のなかで科学的で客観的な知は安定的に発展した。だがその裏面において、近代人の関心はもっぱら客観性に向かうことになり、

II

は徐々に低下していった。知と実存者との関係について深く考察することは稀になつていったのである。

確かに近代も、他者を自分が立てた目的を達成するための単なる「手段」としてはならないという倫理学を打ち立てた。だがその倫理学は普遍性の次元で機能するものであり、そうした倫理学を生きる者の個別的実存についてはほとんど注目しなかつた。特に和魂洋才主義によつて近代化を進めた我が国では、人々の倫理性を高めるということはほとんど目指されなかつた。そうして近代倫理学は近代人の実存にいわば染み込みまずに終わつてしまつた。

④ 近代人は社会的でありながら、同時に個人的に自身の欲望を満足させようとする主体であり続けた。そこでは合法的、市民的な善が要請されるにとどまつた。それ以上の道徳も倫理も、現実社会ではなんら必要とされなくなつたのである。こうした状況のなかで、諸個人の精神が発展し損ねるのが常態となつていつた。

3. 近代哲学の欠点はどこにあつたのか。

それはまず、私たちの単独性や実存に積極的な意味を見いだせなかつた点にあつたように思う。近代哲学は、安易に普遍性の方へと進んでいくのではなく、個人性や単独性、実存といった、普遍化を拒むものについてもとと深く考察すべきだと私は考える。【1】もちろん思惟は、それらに個人性や単独性、特殊性といった抽象的な概念を付与することができる。【2】普遍的な真理を目指すがゆえに、それらはすぐに止揚される。【3】概念へと止揚しなければ思考不可能だという理由によつて。【4】だが實際には、止揚されるというよりも看過されると言つた方が正確だろう。【5】抽象概念には個別的なものは何も含まれていないのである。

第二に、近代哲学は、諸個人がその欲望を追求することについてもとと厳しく見るべきだつたと思う。富や権力に対する諸個人の自然的欲望を規格化しながら肯定するのではなく、その構成を凝視し、それを作り替えるべく努めるべきであつた。近代哲学は、個人的欲望そのものに真理を見いだすことはなかつたが、普遍性に包摂することとそれを許容した。

一見すると、この図式のなかでは、個人性は否定され、他者や社会に重きが置かれているように見えるかもしれないが、実際はそうではない。個人的欲望は、近代社会において経済を駆動する原動力であり続いている。個人性は否定されるのではなく、あくまで社会のうちに流通する形に規格化されるだけである。近代の資本主義はそのようにして回り、肥大化していつた。

# 国語

(その3)

この資本主義は、個人的欲望については肯定するが、諸個人に尊厳は認めない。それは端的に人間を   と見なすことで成立するシステムである。資本家にとって働く者たちは労働力であつて、尊厳ある個人ではない。これは他者の人格を単なる   としてはならぬという近代倫理と対立する。だが近代倫理学は資本主義を止めることも、必要な修正を求めることもできなかつた。普遍性の次元で考えようとしたために、個別的な人格を見つめ続けることができず、結果個人の尊厳を尊重する社会を構築し損ねた。

第三は、他者の軽視である。普遍性や客觀性を志向する近代哲学においては、一見して他者（たち）が大きな重要性を担つてゐるよう見えるが、この理解も必ずしも正しくない。⑤ 近代哲学が想定する他者についてもその単独性が容易に捨象されるからである。他者もまた彼（女）その人に意義はなく、普遍性や客觀性のうちで無用なものになる定めにある。確かに諸個人は合意を形成するために他者と対話する。そうすることで思惟も洗練されるがゆえに、他者の存在は不可欠のものとされる。だがその対話のうちで、他者も「私」と同じく個別性を捨象するよう求められる。そして合意が形成されると、他者は存在意義を失う。他者と語らうのは、普遍的な合意を形成するためでしかないからだ。問題が解決してしまうと、もう他者と語らう必要はなくなつてしまふ。この点もまた他者の尊嚴が尊重されない状況を生み出す原因となつてゐるのである。

近代哲学が考えたよりも、人間は形而上学のなかでもつと濃密に生きるはずのものであるというのが私の理解である。真理は単に社会性の方へ向かつて個人性を止揚したところにあるものではない。キルケゴールが述べたように、諸個人は単独者として自己形成するのである。自身の特殊な状況を取り去ることが自己形成の中身ではなく、これを直視し、引き受け、これに自分に可能な仕方で関わつていけるようになることが自己形成である。他者もまた単独性を生きるはずのものである。

実際、単独者と単独者の間では、この世界で生じる様々な問題について合意を形成するのは決して容易なことではない。実際の問題に関しては、近代哲学が構想したにはなかなかすんなりいかない（近代哲学はそんなことは哲学の問題ではないとすら言う）。私たちは日常生活において「折り合いの悪い他人」に常に遭遇しているのである。私たちが遭遇する隣人は、対話を続けるのがしばしば困難に思えるほどに「折り合いの悪い他者」なのである。私たちはこの現実を直視し、引き受けなければならぬ。

（須藤孝也『人間になるということ——キルケゴールから現代へ』による）

\* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

III

III

# 国語

(その4)

問1 傍線部1「現代の状況」とあるが、それはどのような状況か。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

1。

- a 絶対的に正しいといえる真理を持つイデオロギーで、人間が抱える形而上学的問題を解決しようと/or/したことで、無秩序に陥っている状況。

b 物質の原理を精神の領域に広く当てはめることで意味や価値を見いだそうとしたが、うまくいかず、意味や価値が不在になつていてる状況。

c 形而上学が貧困化ないし無秩序化し、自然科学を原型とする世界観のもとで、普遍性を自らに認める自然主義へと移行している状況。

d 形而上学の空間において採用されたイデオロギーを自らに取り入れ、同じように考える人たちとのみ結び付くことになつていてる状況。

e 自然科学に基づくことで世界が論理的整合性をもつかのように錯覚して、一般性と普遍性の境目を明瞭に捉えられなくなつていてる状況。

問2 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つずつ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

① - 2 ② - 3 ③ - 4 ④ - 5 ⑤ - 6。

- a あるいは b こうして c もちろん d というのも e だが

# 国語

(その5)

問3

二重傍線部 i、ii のことでの意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は

i 敷衍

i - 7、 ii - 8。

- i  
a 意味、趣旨などを概念的にまとめて説明する  
b 意味、趣旨などを押し広げて詳しく述べる  
c 意味、趣旨などを厳しく、念入りに調べる  
d 意味、趣旨などを大局的に捉えようとする  
e 意味、趣旨などを確固としたものにする

ii 立脚しつつ

- a 自らが向かう先を明確に決めつつ  
b 自らが利用することを表明しつつ  
c 自らが考察する対象を提示しつつ  
d 自らが支えとするところを定めつつ  
e 自らが解決すべき問題を見つけつつ

## 国語

(その6)

問4

傍線部2「近代において哲学は」とあるが、近代の哲学の説明として最も適當なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

9

- a 普遍的な法則を導き出す自然科学の考え方に基づいた近代の哲学は、人間を目的と手段という関係の中で捉えることなく、一般性の有無を中心に捉えるようになつた。

- b 人間は本来他人のために利他的に生きるべきであるのに、自らの欲望を満足させるためだけに生きることを認めた近代の哲学は、宗教との結びつきをなくすことになつた。

- c 社会で近代化を進めることが至上命題となつていたため、近代の哲学は個々人の実存を普遍性の次元で捉えるのではなく、バラバラの個人の中に見いだそうとしていた。

- d 自らの欲望を社会的に満足させようとしたために、合法的、市民的な善が人間に求められるようになり、近代の哲学は何の働きもできなくなつてしまつた。

- e 宗教と離れ自然科学に近づいた近代の哲学は、個人的な欲望を満足させる主体として人間を捉え、諸個人を規格化することで、自らに真理を認めた。

問5 空欄Iを補うのに最も適當なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

10

- a 有機的主体      b 利己的主体      c 理性的主体  
d 感性的主体      e 絶対的主体

問6 空欄IIを補うのに最も適當なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

11

- a 近代的な問題を合理的に把握する必要性  
b 倫理的な問題に絶対的な答えを出す必要性  
c 哲学的な問題に絶対的な視点を持つ必要性  
d 自己の問題を深く掘り下げて考える必要性  
e 社会の問題に広く考察を加える必要性

# 国語

(その7)

問7 傍線部3「近代哲学の欠点はどこにあったのか」とあるが、近代哲学の欠点の説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。

解答番号は **[12]**。

- a 近代哲学は、個人の欲望を経済の駆動力とした近代の資本主義とは異なり、個人を否定し他者や社会を重要視してしまった。
- b 近代哲学は、個人的欲望そのものには真理を見いださなかつたものの、普遍性に包摂することで、個人的欲望を認めてしまった。
- c 近代哲学は、思惟が個人性や単独性などという抽象的な概念を扱うことができなかつたので、それらに積極的な価値を見いだせなかつた。
- d 近代哲学は、普遍性や客觀性を志向したことにより、自己の実存よりも他者の実存を過大に評価することになつてしまつた。
- e 近代哲学は、生において自己と他者の対話を不可欠としたために、自己と他者との差異を際立たせることになつてしまつた。

問8 次の文は、本文中の【1】～【5】のどにに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **[13]**。

そして概念を用いて反省することができる。だがこうした概念はその個人や、その特殊な点、その人の単独性について認識しようとするとものではな  
い。

a 【1】 b 【2】 c 【3】 d 【4】 e 【5】

問9 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **[14]**。

a 観念 b 契機 c 物質 d 実在 e 手段

## 国語

(その8)

問10 傍線部4「もつと濃密に生きるはずのものである」とあるが、これはどういふことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

- a 折り合いの悪い他者は容易に折り合うことができないので、無理に折り合いをつけようとはせずに、自らの単独性に基づきながら自己を形成するはずのものであるということ。
- b 折り合いの悪い他者は単独性を生きる実存者ではないが、そんな他者と折り合ふことで、自己の単独性を自覚し確固たる生を営む自己を形成するはずのものであるということ。
- c 折り合いの悪い他者の存在を認めるとは許しがたいものなので、そのような他者を排除することで、快適に生きる自己を形成するはずのものであるということ。
- d 折り合いの悪い他者と付き合ふ不快から強引に抜け出そうとする事なく、他者と不即不離の関係を保ちながら、尊厳のある自己を形成するはずのものであるということ。
- e 折り合いの悪い他者と関係を続けることは困難ではあるが、そんな他者と関係を持つことによって単独性を生きる実存者として自己を形成するはずのものであるということ。

## 国語

(その9)

問11

本文の内容と一致するものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

[16]。

- a イデオロギーとは一般的に事実と認識されるものとの整合性を欠くために、形而上学とは認められることはなく、自分にとつて魅力があつても、他者に認められる一般性を持つものではない。
- b 日本は和魂洋才主義を採用し、近代化を推し進めたために、他者を目的のための手段として取り扱うことになり、単独性に注目した近代倫理学の考え方と対立することになった。
- c 個人性を止揚し、自分自身の特殊な状況を取り去るところに真理があるのではなく、諸個人が普遍者として自己を形成し、ともに生きていくことによつて、実存的な生き方が可能になる。
- d 近代では一見すると他者が大きな重要性を持ち、その他者と合意を形成するために対話を重ねているように見えるが、その対話は普遍性を志向するため、結局は不毛なものに終わってしまう。
- e 個人的欲望を肯定する近代の資本主義は、働く個人を経済を動かす原動力として捉えているため、他者や社会に重きを置いているのではなく、個人の単独性を積極的に評価している。

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑩の番号を付してある。

## 国語

(その10)

- ① キリストの磔刑が人間にとつての贖罪であるということを整合的に説明する唯一の理路は、以下のごとき筋ではないか。
- ② 贖罪を互酬的な贈与交換の一種として解釈しようとしても、失敗する。もう一度、キリストの言動は、正義のベースに互酬的な均衡の論理を、つまり与えたものと受け取るものとの価値は等しくあるべきだとする論理を突き崩そうとしていた、ということを思い起こす必要がある。キリストは律法を終わらせるためにこそやつてきた。律法の正義を基礎づけているのは、罪と罰の間にバランスがあるべきだ、貸借は清算されていなければならない等々の、互酬的な均等性である。律法を終わらせることをねらうキリストが、この互酬の論理の停止をめざすのは、当然のことである。
- ③ キリストが語つたことのひとつに、ぶどう園の労働者の喩え話がある。キリストは、神の国を、何人の日雇い労働者がいるぶどう園に喩えている。このぶどう園の主人（神）は、日が暮れたとき、朝早くから働いていた人にも、遅くから作業に参加した人にも同額の賃金を払った（マタイ福音書二十章）。労働時間に応じた労賃が与えられるべきだとする公平性の感覚（律法の論理）からすると、主人のやり方は間違っているように見える。実際、早朝から働いていた労働者は、主人に抗議する。しかし、キリストが述べているのは、ぶどう園（神の国）では、互酬的な均衡こそが正義であるとする前提が、すでに失われている、ということなのだ。ちなみに、このぶどう園は、ユニズムの世界である。ここでは、「能力に応じて労働し、労働に応じて取る」という規則（ユニズム以前の規則、社会主義の規則）が積極的に否定されているのだから。
- ④ キリストは、互酬的な贈与交換にこそ正義の原型があるとする論理を停止させようとしている。この論点を保持した上で、キリストの磔刑を捉えてみよう。ここで、人間が罪によつて傷つけた相手（つまり神＝キリスト）が自分で、その罪の代償を払つてゐる。この自己循環の関係は、互酬的な贈与に基づく贖罪という論理を前提にしたときには、嘲笑すべきパフォーマンスになつてしまふのだが、むしろ、そのような論理を停止することこそが目指されていたとするならば、つまり、そのように前提をシフトさせてみるとならば、むしろ、必然的な帰結であることが分かる。互酬性は、一方に自己があり、他方に他者があつて、両者が関係しあうことで成立する。これを停止させるためには、この自己と他者との二項分立を否定し、自己の自己への関係といふにまで追いつめる必要がある。
- ⑤ そこからさらに進んで、罪と罰の均衡、侵害と復讐の均衡という互酬的な贈与の論理の息の根を止めるにはどうしたらよいのか。贈与は、一般に、A（自己）がB（他者）のために、という形式をとつてゐる。人が贈与し、またそれに対する応答（お返し）を求めるのは、贈与において何かを放棄するところの自己Aのアイデンティティを、他者Bからの応答によつて確認したいからである。同じことは、Bの側にも言える。したがつて、互酬的な均衡の論理が完全に破綻するのは、AとBが自分自身のアイデンティティの消滅を、自らすすんで積極的に受け入れたときである。キリストの十字架の上の死とは、ま

# 国語

(その11)

さに、この自己消滅のことではないだろうか。キリストは、まず、自他の間の互酬的な贈与の関係をA=Bという自己関係にまで追い込んだ上で、そのA=Bであるところの自己自身の消滅を自ら受け入れ、さらに追い求めたのである。

〔6〕キリストの死によって、罪が贖われたというとき、われわれは、普通は、互酬的な贈与の関係の中で、罪と罰とのバランスがとれ、帳尻があつた、と考  
える。しかし、キリストの死による〈贖罪〉とは、そのような意味ではない。それは、一般の「贖罪」が前提にしていた「均衡による正義」の論理そのものが失効してしまう、ということだったのである。だから、キリストは律法を終わらせた、と見なすことができるのだ。

〔7〕さらにもその先がある。キリストは死ぬ。死んだということは、キリストが人間であることの証しである。しかし、同時に、キリストは神もある。「死」の意味が「人間であること」にあることを考慮すれば、十字架の上で死んだのは、「神」である、と考えなくてはならない。つまり、死んだのは、此岸の「人間」の方なのか、それとも、彼岸にいる超越的な「神」の方なのかと問うたとき、断然、後者である、と考えなくてはならない。神が、普遍的な神が死んだのである。キリストの死によって、神が——彼岸の存在としては消え去り——完全に人間であることが明らかになつた。このとき——純粹に論理的に推論して——何が起きるのか。

〔8〕もともと人々は、神に祈り問い合わせ、神と関係しようとしていた。つまり、人は、超越的な彼岸に存在している神とコミュニケーションしようとしていた。神は普遍的な存在だから、このような神とのコミュニケーションにはすべての信者、すべての人間が参加することができる。このとき、信者の共同性に対して、神がもつ意義が両義的であることに注意しておこう。神は、すべての人間が参加しうる共同体の可能性の条件だが、同時に、神という媒介がなければ共同体が成り立たないのであれば、神は、信者たちが直接関係しあうことの不可能性の条件でもある。

〔9〕さて、キリストが自己消滅を自ら引き受け、超越的な彼岸にはもはや神はない。するとどうなるだろうか。神へと関係しようとしていた、信者=人間たちのコミュニケーション志向性は相手を失つて、結果的には、それぞれに神へと語りかけていた信者たちの集合性そのものへと回帰するほかない。したがつて、〔II〕には、神であるところのキリストが死んで、消滅したことによつて、信者たちが普遍的に参加しうる共同体が実現するはずだ。この共同体は、神=キリストが死んでできあがつた空白を埋めるように実現する。要するに、神の代わりに、信者の共同体が得られるのだ。もっと端的に、こうしてできあがつた共同体は、神そのものの変貌した姿、いわゆる神の実体変容の結果である、と言つてよい。この信者の共同体こそが、キリスト教の用語で、「聖靈」と呼ばれるものではないだろうか。

〔10〕今述べたことを振り返れば、実体変容は、二重に生じていることが分かる。二つの実体変容がある、ということではなく、同一の実体変容が、二重の意味を担つていて、ということだ。一方に、「父なる神」が、肉をもつた「人間（子なるキリスト）」になるという実体変容がある。これこそ、キリストが十字架に磔にされて死んだ、ということの含意であった。このとき、他方で、「人間（信者）」の共同体の方も、新たな精神的な境位に達し、「聖靈」へと変容し

## 国語

(その12)

ている。つまり「父なる神→人間（子なるキリスト）」という変容と「人間→聖靈」という変容とが、同一の実体変容の一重の姿である。

11 ここで気づくことだろう。こうして出現した聖靈としての共同体は、普遍的な包摂性をもつたコミュニズムの社会になつてゐる、ということに。

X

12 コミュニズムがこのように高次化することができるのは、どうしてなのか。その秘密は、今説明した実体変容の一重性にある。神は人間となる。このことは次のことを意味している。すなわち神でありかつ人間であるという矛盾からくる対立は、まずは——人間ではなく——神自身に帰せられる、ということ、である。神は、「人間／神」という亀裂を孕むことにおいて、他の人間たちといささかも区別できない普通の人間である。そうであるとすれば、他のすべての人間、すべての個人も、これと同じ形式の分裂、「自己／（超越的）他者」という分裂を内的に孕んでいるということではないか。すべての人間は、自らのアイデンティティのうちに、このような分裂、このような差異を内在させているという意味において同じである。普遍的な同一性があるのではなく、差異において普遍的であること、これを根拠に生まれる共同性が、聖靈であり、高次化したコミニズムだ。<sup>4</sup>

13 原初的なコミニズムに限界があつたのは、主体の複数性という問題を克服できないからであつた。「われわれ」と「他者」とが、相互に外在している以上、両者の間の友好的な関係は、「互酬化されることを願う贈与」という形式をとらざるをえないが、そのような贈与には、互いに相手を屈服させようとする力の闘争としての側面がある。しかし、「自己」（われわれ）／「他者」という複数性は、個々の主体に内在している普遍的な差異性であるとすればどうか。このようない意味での複数性は、対立や葛藤の原因ではなく、連帶のための条件となる。

14 ここでわれわれが示してきたことは、次のことである。「互酬的均衡に基づく正義」という原理を超えたコミニズム、しかも普遍的な連帶にもとづくコミニズム、このようなコミニズムは可能である。キリスト教の贖罪論を支えている論理を解説する作業に III、われわれは、このことを証明してきた。ただ、ここで明らかにしてきたのは、純粹に論理的な可能性である。そのようなコミニズムが、社会的現実においては、どのような形態となるのか。それはどのような具体的な制度として現実化されるのか。こうしたことについては、まだ何も示してはいない。コミニズムは少なくとも論理的には可能である。しかし、現実においてそれは何なのか。それは、資本主義というシステムを分析したあとに回答すべき問い合わせであろう。

（大澤真幸『クリティーカ社会学 経済の起原』による）

\* 問題の作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

# 国語

(その13)

問1 二重傍線部 i、iiの( )での意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i - □ 、 ii - □ 。

i 整合的

- a 絶対的な真理に基づいている状態      b 科学的に証明されている状態      c 理論の内容に矛盾がない状態  
d 心理的には納得できない状態      e 現実と理論が合致している状態
- ii 清算
- a 貸し借りを禁止すること      b 貸し借りの均衡を保つこと      c 貸し借りに依存すること  
d 貸し借りを見極めること      e 貸し借りの決まりをつけること

問2 傍線部1 「ぶどう園の労働者の喩え話」とあるが、この喩え話とはどのような話なのか。その説明として最も適当なものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は □ 19 。

- a ぶどう園では、朝早くから働いていた人にも遅くから作業に参加した人にも、みんな同額の賃金を支払ったことから分かるように、人間が自らの能力を神に贈与することが評価されたという話。
- b ぶどう園では、みんなが同等の賃金をもらつたことに対して、朝早くから働いていた労働者が抗議することができたことから分かるように、神の定めた律法は絶対的なものではなかつたという話。
- c ぶどう園では、主人が公平性の感覚を蔑ろにしたことによつて、労働者たちに突き上げられたことから分かるように、自らが犯した罪に対しては神から罰を与えられることになるという話。
- d ぶどう園では、自分が与えたものとは関係なく、自分が欲するものを受け取ることができるとは考えられていないことから分かるように、必要に応じて受け取るという規則は否定されていたという話。
- e ぶどう園では、自らの労働に見合う賃金を得るのではなく、それぞれが行つた労働とは関係なくみんな同じ賃金を得ることができたことから分かるように、互酬的な均衡は崩れていたという話。

# 国語

(その14)

問3 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 20。

- a 自己実現    b 自己<sup>どう</sup>撞着    c 自己準拠    d 自己顯示    e 自己矛盾

問4 傍線部2「キリストは律法を終わらせた、と見なすことができるのだ」とあるが、どうすることによつて終わらせることができると筆者は考えているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は 21。

- a 人間が犯した罪を神であるキリストに許してもらう代償に人間がキリストに贈り物を贈るという互酬的な関係を失効させることによつて、律法を終わらせることができる。
- b 人間が神に与えたものと神から受け取るものとの価値は等しくあるべきだという論理を突き崩し、コミュニケーションの世界を構築することによつて、律法を終わらせることができる。
- c 人間の負債を神であるキリストが神に返すという自己の自己への関係にまで互酬性を追い詰め、さらにその自己を消滅させることによつて、律法を終わらせることができる。
- d 人間と神という二項分立を否定して、人間と神を一体化させ、互酬的な贈与に基づく贖罪を嘲笑すべきパフォーマンスにすることによつて、律法を終わらせることができる。
- e 人間が犯した侵害に対し、神であるキリストが復讐するといふ論理を覆し、キリストを磔刑にして、人間が神に復讐することによつて、律法を終わらせることができる。

# 国語

(その15)

問5

傍線部3 「何が起きたのか」とあるが、何が起きたのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

22

- a キリストが磔刑になり、律法の正義を基礎づけていた神が存在しなくなつたことにより、此岸と彼岸が一体化したところに共同体が生まれることになつた。
- b キリストが磔刑になり、超越的な絶対者がいなくなつたことにより、神を媒介とした共同体ではない聖靈としての共同体が生まれることになつた。
- c キリストが磔刑になり、普遍的な神が死んだことにより、信仰心はなくなつたが、コミュニズムの社会としての信者たちの共同体が生まれることになつた。

d キリストが磔刑になり、父なる神が子なるキリストになり、人間が聖靈になるという二重の変容が起こり、神と人間が一体化した共同体が生まれることになつた。

e キリストが磔刑になり、信者たちのコミュニカティヴな志向性が消滅したことにより、かえつて信者たちと神とが直接関係し合う共同体が生まれることになつた。

問6

空欄IIを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は

23

- a 論理的 b 現実的 c 社会的 d 便宜的 e 原理的

問7

は  
24。  
X  
に入る、次のア～エの四つの文を正しく並べたものとして、最も適当なものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号

ア しかし、そのようなコミュニズムを嘗みうる共同体は常に小さく、そしてローカルだ。

イ 「贈与以前の贈与」によつて成り立つコミュニズムの中であれば、贈与が支配の力を生み出す、という問題を回避できる。

ウ しかも、今度は、誰をも包摂しうる普遍的な共同体として、である。

エ だが、ここに、キリストの磔刑死を貫く論理を解明しながら示してきたように、互酬的な贈与を脱構築したとき、コミュニズムが回帰してくる。

a ア→イ→エ→ウ

b ア→エ→ウ→イ

c イ→ア→エ→ウ

d イ→ア→ウ→エ

e イ→ウ→ア→エ

## 国語

(その16)

問8 傍線部4「高次化したコミュニケーション」とあるが、コミュニケーションが高次化するとはどのようになることか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は[25]。

- a すべての人間が〈自己〉(われわれ)／他者〉という複数性を個々の主体に内在させ、そのことによって普遍的な包摂性を持つことができるようになること。
- b 神も人間も共に自己の内部において〈人間／神〉という亀裂を孕み、そのことによって、両者が同一化し、聖靈としての共同体を生み出すようになること。
- c 「贈与以前の贈与」だつたものが、脱構築され、そのことによつて、今まで小さく、ローカルであつた共同体が、広くすべての人間を包み込むものになること。
- d すべての人間が自らのアイデンティティを分裂させ、自己が他者化してしまい、そのことによつて、自己と他者の差異がなくなり、友好的な関係を構築できるようになること。
- e 父なる神が人間に変容し、人間が聖靈に変容するといつて、そのことによつて、神のもとにすべての人間が包摂される共同体ができるようになること。

問9 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は[26]。

- a 比肩して b 先駆して c 措定して d 還元して e 仮託して

問10 本文を大きく二つに分けるとすると、[2]～[14]のうちどこのどこで区切るのが適当か。二つ目の先頭の番号として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は[27]。

- a [5] b [6] c [7] d [8] e [9]

# 国語

(その17)

問11

次の①～⑤のうち、筆者の考え方においてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は ①ー[28]、②ー[29]、③ー[30]、

④ー[31]、⑤ー[32]。

- ① 法律の正義を基礎づけている互酬的な均等性の停止を目指した言動をキリストがとつていたことから、キリストの磔刑は互酬的な贈与に基づく贖罪であるとは解釈できない。
- ② 資本主義社会ではなく社会主義社会においては、「能力に応じて労働し、労働に応じて取る」という規則が広く浸透していくことにより、普遍的連帶をもたらすことが可能になる。
- ③ 罪と罰の間にはバランスがあるべきだという考え方を払拭した上でキリストの磔刑を見てみると、自己循環に陥っているキリストの磔刑は人間にとつての贖罪として成立しない。
- ④ 罪と罰の間にはバランスがあるべきだという考え方を払拭した上でキリストの磔刑を見てみると、自己循環に陥っているキリストの磔刑は人間にとつての贖罪として成立しない。
- ⑤ 互酬的な贈与を脱構築することができたこと、つまり、対立や葛藤の原因ではなく、連帶の条件である主体の複数性により、原初的なコミュニケーションが回帰することになった。

# 国語

(その18)

三

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は熟

熟

a 十三画 b 十四画 c 十五画 d 十六画 e 十七画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は

34。

- a 収益—段丘—編路
- b 具備—仰視—義憤
- c 序幕—福線—気孔
- d 遠革—気運—直行
- e 勃発—謹少—式次

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は

35。

第一人者をジフする。

- a 最強のフジンで試合にのぞむ。
- b 会社の経営に日夜フシンする。
- c 素晴らしい才能を天からフヨされた。
- d 大学卒業後のホウフを大いに語る。
- e 彼は印象派のケイフを引く画家である。

# 国語

(その19)

問4

次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は 36。

a	朗	至	片	粗	嚴
b	郎	至	辺	粗	源
c	郎	至	辺	粗	嚴
d	郎	資	辺	素	源
e	朗	資	辺	素	源

問5

傍線部のことわざ・慣用句の使い方が正しいものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は 37。

- a 質問しているのに、司会者から墓穴を掘られた。
- b 馬齢を重ねてきただけあって、素晴らしい。
- c 裏面目に働いていれば一山当てるともできるだろう。
- d 我が家庭は雀の涙ほどのものである。
- e 我関せらずとばかりに涼しい顔をしている。

問6

ことわざ・慣用句とその意味の組み合わせとして正しくないものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は 38。

- a 踵を接する——物事が次々に起ころる。
- b 峰を越す——絶頂期を過ぎる。
- c 引導を渡す——最終的な宣告を下し諦めさせる。
- d にべもない——愛想がない。
- e へそで茶を沸かす——激しく怒る。

# 国語

(その20)

問7 次の五つの熟語の反対語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。

「協調」 「多忙」 「恥辱」 「杜撰」 「偏向」

- |              |             |             |              |             |                       |      |      |      |       |
|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-----------------------|------|------|------|-------|
| 1 繁密         | 2 対立        | 3 繁雜        | 4 荣譽         | 5 仲介        | 6 嘘 <small>うん</small> | 7 閑散 | 8 反省 | 9 凡庸 | 10 中正 |
| a 1、2、4、7、10 | b 3、4、5、7、9 | c 2、4、7、8、9 | d 1、2、4、5、10 | e 1、3、5、6、9 |                       |      |      |      |       |

- |             |             |             |              |             |
|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|
| a 1、3、5、6、9 | b 3、4、5、7、9 | c 2、4、7、8、9 | d 1、2、4、5、10 | e 1、3、5、6、9 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **40**。

「エピゴーネン」

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| a 本流 | b 嫡流 | c 傍流 | d 亜流 | e 我流 |
|------|------|------|------|------|

問9 梶口一葉の著作を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **41**。

- |       |       |       |       |      |
|-------|-------|-------|-------|------|
| a 武蔵野 | b 十三夜 | c 婦系図 | d 五重塔 | e 縮図 |
|-------|-------|-------|-------|------|

問10 現実をより明晰な知性によつてとらえ直そうとした新現実主義の作家で、『河童』や『歯車』などを書いたのは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **42**。

- |        |         |        |       |       |
|--------|---------|--------|-------|-------|
| a 志賀直哉 | b 芥川龍之介 | c 横光利一 | d 堀辰雄 | e 中島敦 |
|--------|---------|--------|-------|-------|